

VINTA

Seiseki Sakuragaoka



■交通機関
 京王線「聖蹟桜ヶ丘」駅からの所要時間
 ●新宿へ(特急利用)25分
 ●調布へ(特急利用)10分
 ●京王八王子へ(特急利用)11分

住宅・都市整備公団東京支社
 聖蹟桜ヶ丘駅南再開発事務所

※上記事務所は事業終了に伴い閉鎖されています。

VINTA

Seiseki Sakuragaoka

ヴィータ聖蹟桜ヶ丘
 聖蹟桜ヶ丘駅南地区第一種市街地再開発事業



多摩市の新しい北の玄関口として、「VI\TA (ヴィータ) 聖蹟桜ヶ丘」が竣工の運びとなりました。

本事業の完成にあたり、地元権利者をはじめ、施行者である住宅・都市整備公団、国、都及び市民の方々並びに関係各機関の皆様のご支援とご協力に対し、心から感謝申し上げます。

聖蹟桜ヶ丘駅周辺の街づくりは、多摩地域の準広域拠点地区として恵まれた自然環境を生かし、商業・業務・住宅・文化機能が調和した快適な地区の形成を推進し、にぎわいと回遊性のある街並みを整備していくこととしております。

本事業によって、面的な都市基盤整備と共に、魅力ある都市空間の創出と機能の集積を図り、生活圏域の利便性向上の新たな核として商業・公共施設が複合された「ヴィータ・コミュニネ」と住宅棟の「聖蹟桜ヶ丘ビュータワー」、東棟の「ヴィータ・アネックス」が生まれ、また再開発ビルと駅を結ぶペDESTリアンデッキや周辺の道路整備を行い、安全で快適な空間整備が図られました。

まさに21世紀に向け、多摩市の新しい顔が誕生したと考えています。この聖蹟桜ヶ丘駅南地区が、市民をはじめ、多摩市を訪れる多くの方々から「愛され・親まれ」活気あふれる街とし発展していくことを念願し、ごあいさついたします。



多摩市長 鈴木 邦彦

リーディングプロジェクト完成、 多摩をよみがえる街の誕生。

VI\TA
ご挨拶



住宅・都市整備公団 東京支社
支社長 中臣 敬治郎

住宅・都市整備公団東京支社の施行による「聖蹟桜ヶ丘駅南地区第一種市街地再開発事業」が、おかげさまで無事竣工を迎えられましたことを関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

平成2年に地元からの協力要請並びに平成3年に多摩市より施行要請を受けて、平成6年の都市計画決定及び平成9年の権利変換計画認可を経て、完成に至りました。

当事業は「多摩市の顔」づくりのリーディングプロジェクトとして位置付けられており、公益施設、商業施設及び住宅を複合的に開発し、職・住・遊が融合する街をめざしました。

当開発事業の推進に際しましては、権利者の皆様のご理解、ご協力と建設省、東京都、多摩市をはじめとする関係各機関のご指導、ご支援を賜り、衷心より感謝いたします。それとともに、当事業の竣工を契機に当地域がますます発展されることを祈念いたします。

なお、住宅・都市整備公団は、本年10月に都市基盤整備公団として生まれ変わり、既成市街地の再開発、市街地の整備を重点的に推進することとしておりますので、引き続き関係各位のご支援を併せてお願いいたします。

多様な機能・多彩な表情がハーモニーする街、VI\TA

アーキテクツ
ギャラリー



完成した建物は、快適性、安全性、利便性を求めて、技術の粋が集約されています。それらが、多彩な表情となってここに住む人、集う人、働く人にここよさをもたらしてくれます。



住宅棟展望ロビー



住宅棟居室内部

聖蹟桜ヶ丘ビュータワー外観

VI\TA (ヴィータ) って何?!

VI\TA
Seiseki Sakuragaoka

再開発地区の全体の愛称です。
建物はVI\TA COMMUNE、VI\TA ANNEXと
ネーミングされました。
VI\TAは「Vision and Intelligence of TAma/知
性豊かな多摩市の未来象」の略語ですが、イタリ
ア語でVITAは「生活、人生」という意味をもちま
す。また、ネーミングの音の響きには、知的で優雅
な余韻が残ります。
このエリアが、快適で豊かな生活を育み、発展し、
時代を越えて愛されることをVI\TAに託しました。



1-1 街区外観 (ヴィータ・コミュニネ)



1-2 街区外観
(ヴィータ・アネックス)



1-1 街区
多目的ホール
(客席可動式舞台)



8F 学習室



7F ロビー



住宅棟駐輪場スロープ



住宅棟地下駐輪場



関戸公民館内茶室入口

まちの更なる発展を求めて。

聖蹟桜ヶ丘の環境

多摩市は都心から西南30キロメートル圏に位置し、昭和46年(1971年)に東京都で24番の市として誕生しました。多摩市の玄関口にあたるのが聖蹟桜ヶ丘地区です。

聖蹟桜ヶ丘駅は京王線特急利用で新宿から25分の距離にあり、駅前は百貨店を中心にショッピングセンター街が形成され、周辺に大学が点在することから学生も多く、若い活気と賑いにあふれています。また、この地域一体は多摩川、大栗川などの自然に恵まれ、古くから桜の名所としても有名ですが、旧多摩聖蹟記念館をはじめとする史跡も数多くあり、近年はベッドタウンとして急速に発展してきました。

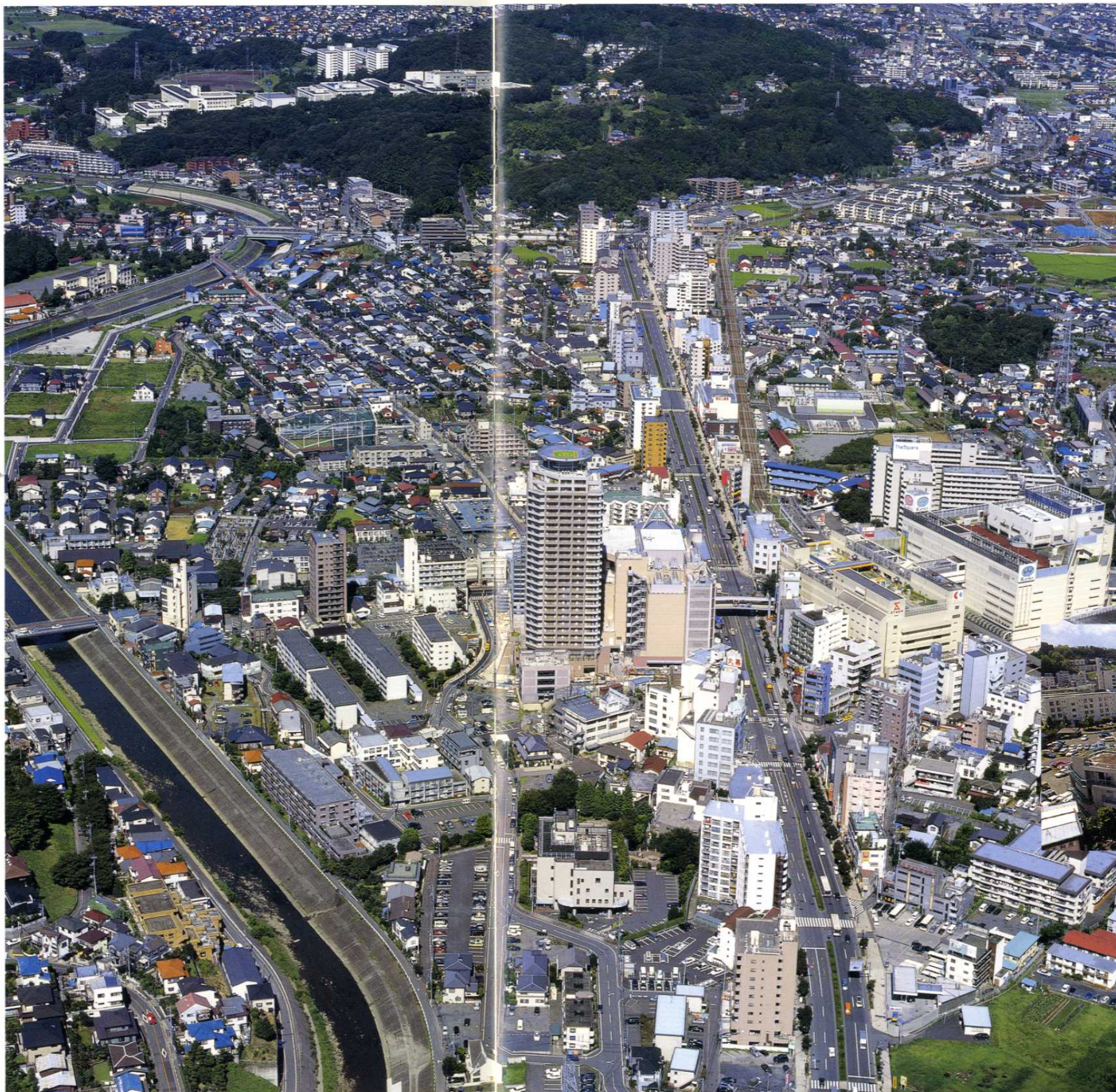
豊かな自然と歴史・文化、閑静な住宅地と駅前の華やかさ、これらの魅力を合わせもつ聖蹟桜ヶ丘は、京王線沿線のイメージリーダーとして今、最も注目される街の一つです。

多摩市では、第3次総合計画に基づく多摩の「顔づくりプロジェクト」のリーディングプロジェクトとして聖蹟桜ヶ丘地区を位置付けました。

「聖蹟桜ヶ丘駅南地区第一種市街地再開発事業」は、市の計画に従い駅南口の新しい顔を創出する核となるプロジェクトです。

事業の完成により、駅南口は活気と賑いが面としての広がりを持ち、職・住・遊が融合する快適な街に生まれ変わります。

航空撮影(東より)



再生された
街の表情
地区の環境

これまでの駅南地区

駅南地区は、聖蹟桜ヶ丘駅の中心地区であるにもかかわらず土地の有効利用が進まず、広場や緑地などのオープンスペースも十分ではありませんでした。

一方、道路環境の改善も早くから望まれていました。事業地区の北側に接している川崎街道は車両交通量が多く、当地区と駅とを分断していました。また、地区西側の通称さくら通りは、片側一車線で沿道に商店街が形成されているため、停車・駐車車両がしばしば交通渋滞を招いていました。そして、地区南側の九頭龍通りは幅員が4メートルと狭くて見通しも悪いなどです。

駅南地区の土地の有効利用と環境の改善、安全性の向上等は急務な課題となっていました。



駅南口地区のランドマークづくり。

事業計画の概要

土地の高度利用による複合施設を計画し、核となる大型商業施設と市民生活を様々な角度からサポートする多摩市の文化施設の誘致、駅前立地にふさわしい超高層住宅を建設することにしました。併せて既存道路の修景や整備、駅につながるペDESTリアンデッキと新設道路の建設、広場状のオープンスペースの創出等を行い、計画地全体が駅南地区のランドマークとなるような都市基盤整備を図りました。

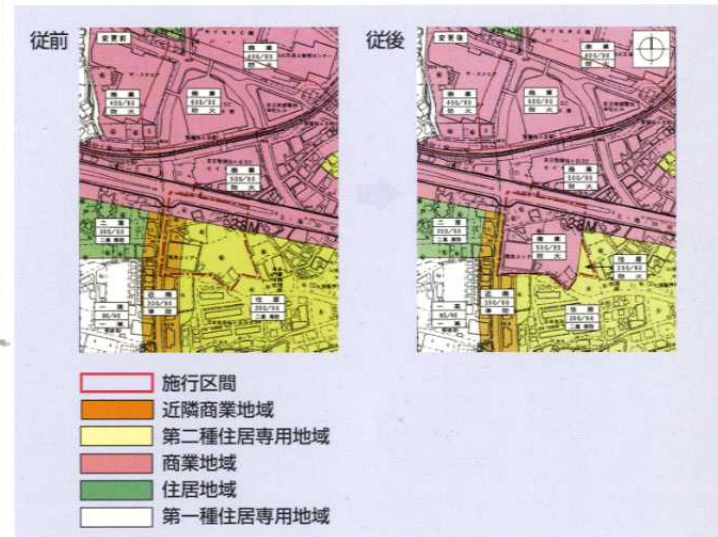
再開発事業の概要

当事業は、平成3年に公団が再開発準備会及び多摩市から施行要請を受け、翌4年に現地再開発事務所を開設、平成6年に都市計画が決定しました。

施行区域は二つの街区で構成し、施行面積は約1.4ヘクタール、公共施設と商業・文化施設、住宅、駐車場等の整備を行いました。二つの街区の合計建築敷地面積は、約9,767平方メートル、延床面積は69,936平方メートルです。

1-1街区には10階建の商業・文化施設棟と27階建、総戸数155戸の住宅棟を一体の建築物として建設し、1-1街区と新設道路で向かい合う1-2街区には施設棟を建設しました。また、それぞれの建物壁面は2メートルから4メートル後退させて歩行空間を広げ、植栽を施して緑の環境も整えました。

用途地域図



事業概要

事業名称: 聖蹟桜ヶ丘駅南地区第一種市街地再開発事業
 計画地: 多摩市関戸一丁目及び関戸四丁目各内地
 事業予定年度: 平成7年～平成11年度
 施行区域面積: 約1.4ヘクタール

従前権利者状況

| 区分 | 人数 | 構成比 |
|-------------|-----|--------|
| 土地所有者 | 13人 | 56.5% |
| 建物所有者(借地権者) | 2人 | 8.7% |
| 小計 | 15人 | 65.2% |
| 借家権者 | 8人 | 34.8% |
| 合計 | 23人 | 100.0% |

従前土地利用者状況

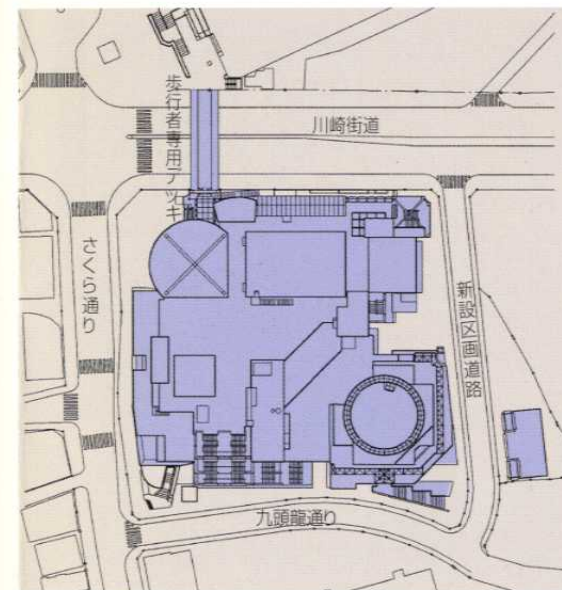
| 区分 | 面積 | 構成比 |
|---------|----------------------|--------|
| 公共施設 道路 | 3,426m ² | 23.7% |
| 水路 | 662m ² | 4.6% |
| 宅地 市有地 | 790m ² | 5.5% |
| 民有地 | 9,592m ² | 66.2% |
| 合計 | 14,470m ² | 100.0% |

従前構造別状況

| 建物構造 | 棟数 | 建築面積 | 構成比 | 延べ面積 | 構成比 |
|--------------|-----|---------------------|--------|---------------------|--------|
| 非耐火 木造 | 7棟 | 380m ² | 16.3% | 567m ² | 9.5% |
| 鉄骨造 | 1棟 | 17m ² | 0.7% | 16m ² | 0.3% |
| 耐火 鉄筋コンクリート造 | 4棟 | 1,937m ² | 83.0% | 5,371m ² | 90.2% |
| 合計 | 12棟 | 2,334m ² | 100.0% | 5,954m ² | 100.0% |

従前建築物用途別状況

| 建物用途 | 棟数 | 構成比 | 床面積 | 構成比 | 建築面積 | 構成比 | 備考 |
|--------|-----|--------|---------------------|--------|---------------------|--------|--|
| 業務施設 | 2棟 | 16.7% | 1,434m ² | 24.1% | 423m ² | 18.1% | 1. 平均容積率 57.4% 2. 平均建ぺい率 22.5% 3. 総住戸棟数 5棟(5戸) |
| 専用店舗施設 | 3棟 | 25.0% | 3,638m ² | 61.1% | 1,444m ² | 61.9% | |
| 併用住宅施設 | 2棟 | 16.6% | 80m ² | 1.3% | 55m ² | 2.4% | |
| 住宅施設 | 3棟 | 25.0% | 662m ² | 11.1% | 220m ² | 9.4% | |
| その他 | 2棟 | 16.7% | 140m ² | 2.4% | 192m ² | 8.2% | |
| 合計 | 12棟 | 100.0% | 5,954m ² | 100.0% | 2,334m ² | 100.0% | |



公共施設の整備

1-1 街区の施設棟7.8階に多目的ホール・情報ライブラリー
 歩行者専用通路/川崎街道を横断する歩行者デッキを市道として新設する(幅員9m,延長約35m)

| 道路種別 | 名称 | 全幅員(内施行区域内の幅員) | 延長 | 備考 |
|------|-----------|-------------------|-------|-------------------------------|
| 幹線街路 | 主要地方道20号線 | 28m(14m) | 約110m | 都市計画道路(多3-3-10)整備済 |
| | 市道1-1号幹線 | 15~17.5m(7.5~10m) | 約100m | 拡幅(右折レーンを新設するため既存市道を0~2.5m拡幅) |
| 区画街路 | 市道1-80号線 | 9m(9m) | 約105m | 拡幅(既存市道を約5m拡幅) |
| | 区画道路 | 9m(9m) | 約100m | 新設 |

建築物の整備

| 街区 | 主な用途 | 敷地面積 | 建築面積 | 建ぺい率 | 延べ面積(容積対象) | 容積率 | 高さ |
|-----|----------------------|---------------------|---------------------|-------|---|--------|--------------|
| 1-1 | 市文化施設・店舗 住宅(155戸) | 9,003m ² | 7,100m ² | — | 69,052m ² (約55,000m ²) | — | 約45m 約94m |
| 1-2 | 施設 | 764m ² | 215m ² | — | 884m ² | — | 約19m |
| 合計 | — | 9,767m ² | 7,315m ² | 74.9% | 69,936m ² (約55,920m ²) | 572.5% | — |

*各諸元は平成7年3月(基本設計)時点の計画によるものです。**1-1、1-2は一団地認定による1敷地で計画する予定です

都市計画の内容

| 用途地域 | 1-1 街区(西棟)約1.3ha | | 1-2 街区(東棟)約0.1ha | |
|----------------------------------|---|--------------------------|----------------------|----------------------|
| | 従前 | 都市計画決定後 | 従前 | 都市計画決定後 |
| | a) 住居 b) 近隣商業 c) 商業 | 商業地域 | 住居 | 住居地域(同左) |
| 都決後→地区計画において風俗関連営業、工場、倉庫等の用途規制あり | | | | |
| 容積率 | 高度利用地区 | 200/300/500% a) b) c) | 500% | 200% |
| | 容積率の最低限度 | — | 600% | 250% |
| 建ぺい率 | 高度利用地区 | 60/80/80/% a) b) c) | 80% | 60% |
| | 建築面積の最低限度 | — | 90% | 50% |
| 高さ | 最高の高さ | — | 200m ² 以上 | 200m ² 以上 |
| | 最低の高さ | — | — | — |
| | 高度地区 | 第2種 | 中層部60m/高層部100m | — |
| 日影規制 | 規制あり a) b) | 規制対象外 (商業地域・高度利用地区) | 規制あり | 規制対象外 (高度利用地区) |
| 防火・準防火 | a) b) 準防火・防火 ^{c)} | 防火地域 | 準防火地域 | 防火地域 |
| 壁面の位置の規制 | — | 2m, 2.5m, 3~4m | — | 2.5m |
| 広場状空地 | — | 約600m ² | — | 約300m ² |
| 歩行者通路 | 都決後→施設棟2階ピロティ部分に歩行者通路を新設する(幅員4m,延長約85m) | | | |

めざしたのは安全性と機能性、景観の向上です。

道路の整備方針

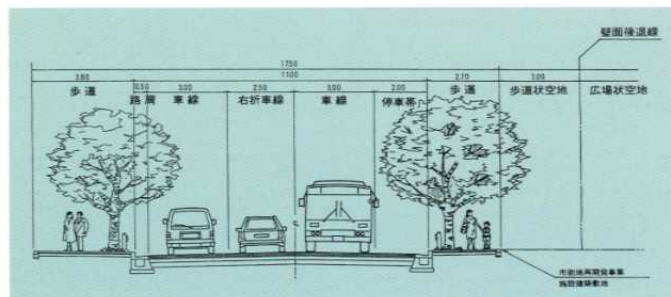
再開発事業では、歩行者専用デッキを設けて人と車両の立体分離を図ったり、車道や歩道の 신설・拡幅・電線の地中化など、さまざまな整備・修景を行いました。めざしたのは、安全性・機能性と景観の向上です。

さくら通り (市道 1-1 号線)

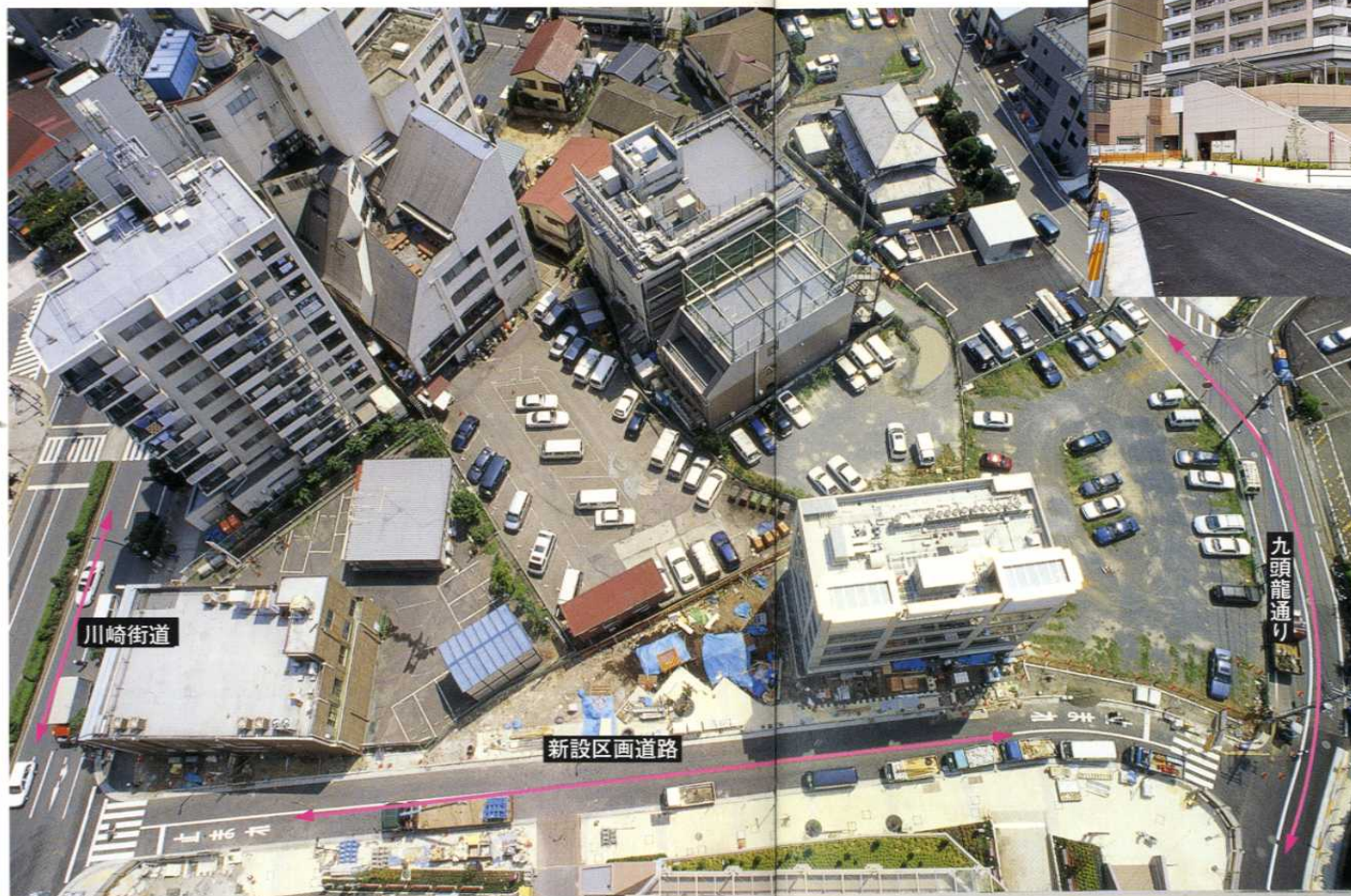
さくら通りでは、川崎街道に向かう右折れレーンを新設しました。また、事業地側に駐車帯の車線を設けて、路線バス等のスムーズな運行を図りました。さらに、再開発ビルの壁面を3メートル後退させて歩道状空地をつくり、既存の歩道と一体化して5メートル以上の歩道空間を創出しました。



■さくら通り



■さくら通り断面図



九頭龍通り (市道 1-80 号線)

既存の4メートル道路を9メートルに拡幅し、車道は6メートル、歩道は各1.5メートルとしました。ここでも再開発ビルの壁面を2.5メートル後退させたので、事業地側では実質4メートルの歩道空間が生まれました。

市道には商業・文化施設棟の駐車場出入口と貨物搬入の出入口を設け、従来あった水路は下水道として道路下に移設しました。

新設区画道路

再開発事業により新設された道路で、完成後は多摩市に移管されます。

道路幅員及び歩道空間は、九頭龍通りと同様に車道は6メートル、歩道は壁面後退による歩道空間とあわせると各4メートルとなります。この道路には商業・文化施設棟の駐車場出入口と居住者用駐車場の出入口があります。

歩行者専用デッキ

川崎街道を立体横断する歩行者専用デッキ、愛称「ヴィータブリッジ」を設けました。

歩行者専用デッキの幅員は9メートルで、事業地の商業・文化施設棟の2階エントランスと駅側の京王せいせきショッピングセンターA館の2階部分を結びます。歩行者専用デッキは、エントランスホールからさらに建物を周回する歩行者専用通路とつながって、住宅棟の玄関に至ります。地上と歩行者専用デッキを結ぶエスカレーターと階段は、ヴィータさくら広場に新設しました。



■ヴィータブリッジ

公開空地

商業・文化施設棟のメインゲートとなる部分には、「ヴィータさくら広場」と愛称される広場状の空地を設けました。賑いと華やかさと広がりをもつこの広場から、人々は商業・文化施設や住宅、歩行者専用デッキ等に向かいます。

ヴィータさくら広場に設置したウォーターモニュメントは、多摩の自然の一つ、「水」を象徴するとともに、ここに集う人々の格好のサインとなります。



コンセプトは快適空間の創出です。

1-1 街区

再開発地区の中心となる街区です。ここには地下3階、地上10階建の商業・文化施設棟と地下1階、地上27階建の住宅棟を一体の建築物として建設しました。敷地面積は約9,003平方メートル、2棟の合計建築面積は約7,100平方メートル、延床面積は約69,052平方メートルです。商業・文化施設棟はヴィータ・コミュニェ、住宅棟は聖蹟桜ヶ丘ビュータワーと愛称されました。

商業・文化施設棟は川崎街道とさくら通りに面し、地下2・3階は駐車場、地下1階から地上6階は物販、飲食、サービス等の各種店舗を予定しています。また、7階から9階の一部は多摩市の各種施設で、行政のサービス窓口や文化ホールなど、市民の暮らしをサポートする各種機能が整います。

商業・文化施設棟南側の住宅棟は、総戸数が155戸(うち143戸は公団の賃貸住宅)の超高層住宅で、1LDKから3LDKまであり、バリエーションも豊富です。建物の地下1階には住宅専用駐輪場を、地上1・2階には商業・文化施設用の駐輪場を設け、ロビー階の一部には店舗を誘致します。

2棟の2階部分は歩行者専用通路で結ばれ、歩行者専用通路は商業・文化施設棟のエントランスホールで歩行者専用デッキに接続します。

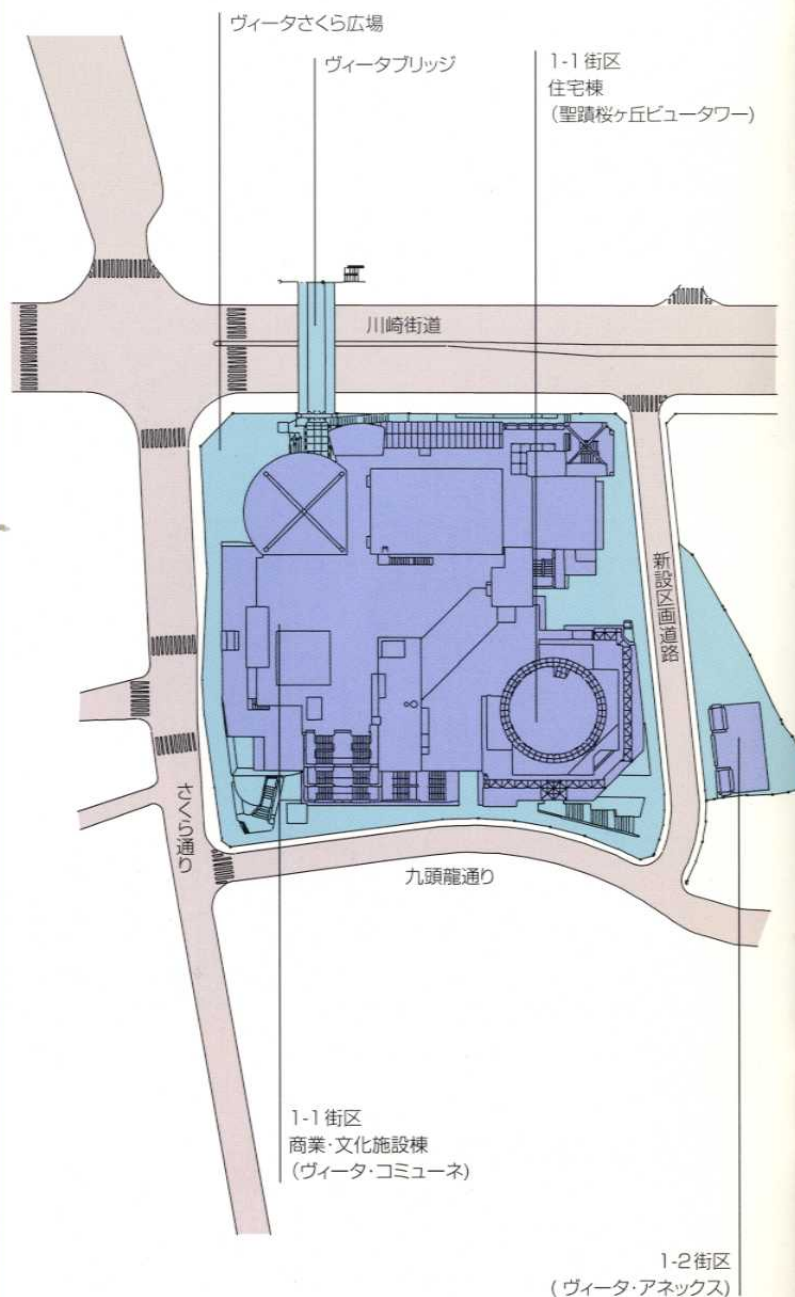
川崎街道とさくら通りが交差するところに広がる公開空地はメインゲートです。ここは「ヴィータさくら広場」と愛称され、街区で最も賑わう場所となります。ヴィータさくら広場の上部には建物7階の市民ロビーが半円状にせり出し、斬新なフォルムが建物全体を求心します。

1-2 街区

新設道路をはさんで住宅棟と向かい合う街区です。敷地面積は約764平方メートル、建築面積は約216平方メートル、延床面積は約884平方メートルです。建物は地上4階建て店舗等の施設を予定しています。この街区はヴィータ・アネックスと愛称されます。



VITA 施設配置図



1-1 街区

| 階 | 施設(容対) | 住宅(容対) | 駐車・駐輪(容対) | 延床(容対) |
|--------|------------------------------|------------------------------|---------------------------|------------------------------|
| ピットF | | | 4,995 (0)m ² | 4,995 (0)m ² |
| B2F | 2,125 (1,974)m ² | | 3,353 (378)m ² | 5,478 (2,352)m ² |
| B1F | 5,348 (5,348)m ² | 686 (0)m ² | 997 (0)m ² | 7,031 (5,348)m ² |
| 中B1F | | 23 (0)m ² | 484 (0)m ² | 507 (0)m ² |
| 1F | 4,654 (4,654)m ² | 285 (285)m ² | 3,673 (11)m ² | 8,612 (4,950)m ² |
| 2F | 4,541 (4,541)m ² | 447 (447)m ² | | 4,988 (4,988)m ² |
| 3F | 3,994 (3,994)m ² | 649 (649)m ² | | 4,643 (4,643)m ² |
| 4F | 3,940 (3,940)m ² | 649 (649)m ² | | 4,589 (4,589)m ² |
| 5F | 3,940 (3,940)m ² | 649 (649)m ² | | 4,589 (4,589)m ² |
| 6F | 3,981 (3,981)m ² | 649 (649)m ² | | 4,630 (4,630)m ² |
| 7F | 3,136 (3,136)m ² | 649 (649)m ² | | 3,785 (3,785)m ² |
| 8F | 2,585 (2,585)m ² | 649 (649)m ² | | 3,234 (3,234)m ² |
| 9F | 717 (717)m ² | 649 (649)m ² | | 1,366 (1,366)m ² |
| PH1F | 60 (60)m ² | | | 60 (60)m ² |
| 10~11F | | 1,298 (1,298)m ² | | 1,298 (1,298)m ² |
| 12~17F | | 3,812 (3,812)m ² | | 3,812 (3,812)m ² |
| 18F | | 635 (635)m ² | | 635 (635)m ² |
| 19~24F | | 3,812 (3,812)m ² | | 3,812 (3,812)m ² |
| 25F | | 512 (512)m ² | | 512 (512)m ² |
| 26F | | 311 (311)m ² | | 311 (311)m ² |
| PH2F | | 165 (165)m ² | | 165 (165)m ² |
| 計 | 39,021(38,870)m ² | 16,529(15,820)m ² | 13,502(389)m ² | 69,052(55,079)m ² |

●面積

| | |
|------|---|
| 敷地面積 | 9,003m ² (東棟敷地含む一団地の面積/9,767m ²) |
| 建築面積 | 7,100m ² |
| 延床面積 | 69,052m ² (容対約55,000m ²) |
| 建ぺい率 | 約79%(団地全体/約75%) |
| 容積率 | 約610%(団地全体/約570%) |

●寸法

| |
|------------------------|
| 最高高/約94m |
| ●構造型式 |
| 施設 柱SRC・梁Sラーメン構造、一部鉄骨造 |
| 住宅 高強度RCラーメン構造 |
| 基礎 直接基礎(べた基礎) |
| ●階数 |
| 地下3階、地上26階(基準法上27階) |

1-2 街区

| 階 | 容積対象 | |
|----|-------------------|--|
| | 店舗等 | |
| 1F | 214m ² | |
| 2F | 214m ² | |
| 3F | 214m ² | |
| 4F | 214m ² | |
| PF | 26m ² | |
| 計 | 884m ² | |

●面積

| | |
|------|---|
| 敷地面積 | 764m ² (東棟敷地含む一団地の面積/9,767m ²) |
| 建築面積 | 216m ² |
| 延床面積 | 約884m ² (容対約884m ²) |
| 建ぺい率 | 約28%(団地全体/約75%) |
| 容積率 | 約120%(団地全体/約570%) |

●寸法

| |
|---------------|
| 最高高/約18.50m |
| ●構造型式 |
| RCラーメン構造 |
| 基礎/直接基礎(べた基礎) |
| ●階数 |
| 地上4階 |

一団地の面積表

| | 1-1 街区(西棟) | 1-2 街区(東棟) | 合計 |
|---------|-----------------------------|----------------------------|-------------------------------|
| 敷地面積 | 9,003m ² | 764m ² | 9,767m ² |
| 最大容対床面積 | 54,018m ² (600%) | 1,910m ² (250%) | 55,928m ² (572.6%) |
| 建築面積 | 7,100m ² | 216m ² | 7,316m ² |
| 建ぺい率 | 約79% | 約28% | 約75% |
| 延床面積 | 69,052m ² | 884m ² | 69,936m ² |
| 容積対象床面積 | 約55,000m ² | 約884m ² | 約55,884m ² |
| 容積率 | 約610% | 約120% | 約570% |
| 駐車台数 | 約460台 | 約9台 | 約469台 |
| 住宅戸数 | 155戸 | | 155戸 |

施設建築物の概要



seisekisakuragaoka watching



中世歴史のターニングポイント、 関戸の合戦

聖蹟桜ヶ丘駅東口から東南に約700メートル、大栗川を渡った先に関戸古戦場跡があります。

弘元三年(1333)、ときの幕府北条泰家軍と倒幕の兵を挙げた新田義貞軍がこの地で激しい合戦を行いました。この戦いは幕府軍を敗退させ、時代は鎌倉から南北朝時代へと代わるきっかけとなります。古戦場跡地周辺には、今も戦死した有名無名の戦士たちの墓が多数点在します。



多摩川関戸の花火大会

名は体を表すその1—“関戸”

関戸古戦場跡地から更に約600メートル南で昭和35年に関所の柵跡が発掘されました。これは鎌倉時代の建暦3年(1213)、鎌倉街道に設けられた霞ノ関南木戸柵跡で、現在熊野神社境内に復元されています。“関戸”という地名はこの関所の南木戸に由来するといわれています。なお、柵跡は昭和36年に都の指定史跡になりました。



霞ノ関南木戸柵跡



熊野神社

名は体を表すその2—“聖蹟桜ヶ丘”

“聖蹟”とは、明治天皇の多摩市への4回の行幸を記念し、昭和5年に建設された「旧多摩聖蹟記念館」に因みます。設計は関根要太郎で、オーストリアとドイツの建築デザインの影響を受けた1階建の洋風建築物です。

周辺は起伏に富む丘陵地帯で、古くから桜の名所でしたから“桜ヶ丘”は自然の成り行きです。桜楽軒(茶店)や桜馬場、桜通りなど、“桜”を冠した建築物や場所が随所にあります。



旧多摩聖蹟記念館



五賢堂



多摩川

事業の経緯

- 昭和60年 3月 桜ヶ丘駅南第2地区地主会結成
- 昭和63年 11月 地主会において公団事業手法等の説明
- 平成元年 3月 事業に対する基本的な考え方について、権利者ヒアリングを実施
- 平成2年 12月 地主会から、市及び公団に対し事業化に向けての協力要請
- 平成3年 6月 再開発準備会発足
- 平成3年 9月 再開発準備会より公団へ施行要請
- 平成3年 10月 多摩市より公団へ施行要請
- 平成4年 4月 新規事業地区として予算採択
- 平成4年 7月 流通小売業界に対する事業概要の説明及びアンケート調査の実施
- 平成4年 9月 事業推進に関する基本協定を多摩市と締結
- 平成4年 9月 公団現地事務所を開発
- 平成6年 4月 都市計画決定(東京都知事、多摩市)
- 平成6年 8月 商業施設一括賃借人の公募
- 平成6年 12月 商業施設一括賃借人の決定
〔(株)ダイエー・アゴラ〕
- 平成7年 3月 基本設計完了
- 平成7年 12月 出店に関する基本協定を(株)十字屋
〔旧(株)ダイエー・アゴラ〕と締結
- 平成7年 12月 事業計画認可申請
- 平成8年 4月 事業計画認可
- 平成8年 5月 評価基準日
- 平成8年 11月 事業計画変更認可
- 平成9年 1月 権利変換計画認可
- 平成9年 2月 権利変換期日
- 平成9年 3月 既存建物除却開始
- 平成9年 5月 起工式
- 平成11年 5月 賃貸住宅募集開始
- 平成11年 8月 住宅棟引渡し
- 平成11年 9月 商業・文化・業務施設棟引渡し
- 平成11年 9月 竣工式
- 平成11年 9月 事業完了公告

